

国語 第5学年 人物像について考えたことを伝え合おう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：人物相互の関係と心情を場面の描写から捉え、大造じいさんの人物像を考える。行動の変化と情景の表現が、読む人にどのような印象を与えるかを検討する。C(1)イ・C(1)エの学習として、人物像の説明文。関係する相手、行動と心情、情景の表現、人物像と根拠を整理する。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、描写から人物の関係や心情を捉え、人物像と表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)イ・C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：人物像の説明文を残す。関係する相手、行動と心情、情景の表現、人物像と根拠を整理する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)イ・C(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：最後の心情だけで人物像を作る。情景を感情と機械的に一対一で対応させる。これについて、行動と情景を対応させた後、その場面の前後を読む。情景の印象が異なる場合は語句の根拠を比べる。人物像の言葉を選ぶ際は、反対に見える行動も検討する。〔知識及び技能〕(1)カとC(1)イ・C(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)イ・C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：人物像の説明文は紙に記録できる。関係する相手、行動と心情、情景の表現、人物像と根拠を整理する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)イ・C(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)イ・C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：光村版と重点がどう違うのか。

返し：東京書籍版の本案はC(1)イ・エを中心に、描写から人物の関係・心情・人物像を考える評価を置く。光村版の共有による考えの広がりや、そのまま主評価に移していない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「大造じいさんの人物像を表すなら、どの行動と情景を合わせて考えますか。前後の場面で見え方はどう変わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)イ・C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

